

## 第二外国語中級以上の履修の際の制限について

【ご意見・ご要望】（投稿日：2020年9月24日）

二回生前期まで、第二外国語としてイタリア語を取っていましたが、心境の変化もあり、後期からはフランス語に挑戦してみよう、と考えて、この夏休みに独学でフランス語の基本文法を習得しました。

さて、いざ後期に入ってみて、フランス語の中級を履修しようとしてみると、フランス語ⅡB(中級)は、フランス語初級を4単位以上取得した者でないと受けることができない、と書いてあります。このために、わざわざ初級から取り直すことは、すでに文法を学習した者にとって非効率的であり、生徒の時間(90分×15回、4単位必要なのであれば、倍の時間が必要)を奪うものではないでしょうか。その時間があつたらもっと他の勉強に有効活用することができます。

解決策として、フランス語初級(ⅠA, ⅠB)の単位を、授業に出席せずとも中間・期末テストに合格すれば与える方式、または、一定以上の語学能力の証明(たとえば、仏検3級以上、など)を持った生徒を、初級を受けなくとも中級を受けることのできるシステムに変えることを要望します。

また、純粹に、「何単位以上初級を取って初めて、中級を受けることができる」という制度自体をなくして欲しいです。僕のように、自学自習で第二外国語を勉強する人もいると思うので、そのような人の学習意欲をさらに高めるような制度であってほしいです。

【回答】（回答日：2020年9月29日）

（回答者：国際高等教育院）

ご意見頂戴しありがとうございます。

中級の授業は、初級の授業で身につけた基礎的言語機能を充実させ、学術的言語機能の涵養に資することを目標としているため、科目の順次制を重視しております。

全学共通科目で開講される初修外国語は、独学のみによる言語習得では十分ではない授業内容となっています。また、初修外国語を受講する学生は主に初学者であり、多くの学生が履修する全学共通科目では、中級へのステップアップの条件として一定のルールがあることをご理解願います。